

子ども・学校危機支援チーム

私たちは、東日本大震災が発生した2011年3月に緊急集会を開き、「日本学校心理士会 東日本大震災子ども・学校支援チーム」を立ち上げました。2017年5月「日本学校心理士会 子ども・学校危機支援チーム」と名称を変え、下記の内容の支援を全国の子ども・学校を対象に幅広く活動しています。この度の能登半島地震に対しても同様の支援を行います。

- ①NASP(アメリカ学校心理士会)と連携して、自然災害にあった子どもを援助するための、「教師や保護者」向けの資料の作成と配布を行っています。資料は、日本学校心理士会のHPからダウンロードできます。
- ②被災地では現地リーダーの学校心理士が中心となり、子どもと学校の支援を行っています。また、被災地の学校に学校心理士を派遣しています。
- ③避難している子ども(転校生)を迎える学校を支援しています。
- ④災害後の子ども・学校の援助について、研修会を行っています。



平成28年 熊本地震(益城町)



被災地小学校長と面談



日本学校心理士会 会長

山 谷 敬 三 郎

「学校心理士」は、「学校生活で苦戦する子どもの援助」や「すべての子どもたちのために学級・学校づくりの促進」を担う専門的な資格です。

具体的には、生徒指導や教育相談を担当する教師や特別支援教育コーディネーター、スクールカウンセラーなどとして活動しています。

学校心理士は、それぞれの学校の地域において、チーム援助を大切にし、「チーム学校」の一員として、さらには、福祉・教育の様々な分野で活躍することが期待されています。

学校心理士になるには

資格要件

- 大学院(教職、公認心理師養成含む)で学校心理学の科目を修得し、修了して、学校心理学に関する専門的実務経験を1年以上有する方
- 学部卒業で学校心理学に関する専門的実務経験(生徒指導、教育相談、特別支援教育など)を5年以上有する方、または管理職としての経験を3年以上有する方
- 准学校心理士取得後、機構や士会等の研修を受講し、3年以上の専門的実務経験のある方
- 公認心理師

まず、当該年度の「手引き及び申請書」等をお買い求めください。資格申請期間は毎年5~6月、筆記試験実施は8月です。

審査は、(1)提出された書類、(2)筆記試験、(3)ケースレポートまたは研究業績について行われ、(1)~(3)を総合して合格・不合格が判定されます。

詳しくはホームページをご覧ください

<https://gakkoushinrishi.jp>



一般社団法人 学校心理士認定運営機構

日本学校心理士会

〒113-0033 東京都文京区本郷 2-32-1 BLISS 本郷ビル3F

TEL 03(3818)1554 FAX 03(3818)1588

E-mail:office@gakkoushinrishi.jp

支部一覧 (2025年7月1日現在)

北海道支部	東京支部	静岡支部	和歌山支部	福岡支部
北東北支部	千葉支部	愛知支部	兵庫支部	佐賀支部
山形支部	神奈川支部	三重支部	岡山支部	長崎支部
宮城支部	新潟支部	滋賀支部	広島支部	熊本支部
福島支部	長野支部	京都支部	徳島支部	大分支部
茨城支部	北陸支部	大阪支部	香川・高知支部	鹿児島支部
埼玉支部	岐阜支部	奈良支部	愛媛支部	

すべての子どもの
学校生活を支援する

学校心理士



一般社団法人 学校心理士認定運営機構

Japanese Organization of Certifying and Managing
School Psychologists(JOSP)

日本学校心理士会

Japanese Association of School Psychologists(JASP)

学校心理士は、学校における「心理教育的援助サービス」の専門家

—教育相談・特別支援教育のコーディネーター、スクールカウンセラーとして—

学校心理士の役割

心理教育的 アセスメント

子どもの問題状況にかかわる情報を収集、教育的支援や教育計画の立案・修正などの資料を作成する

子どもへの カウンセリング

個別、または集団への働きかけを通して問題解決、危機の回避や対処を援助する

教師・保護者への コンサルテーション

子どもの問題を解決するため、子どもを取り巻く人たちに働きかける

学校組織への コンサルテーション

学校全体として対処していく方法を模索するため、組織へ働きかける

学校教育の場で子どもを取り巻くさまざまな状況において、専門的な心理教育的援助サービスが求められるようになり、1997年度から「学校心理士」の資格認定が行われるようになりました。これまでに誕生した学校心理士は8,000人を超え、心理教育的援助サービスの専門性を活かして、教育相談・特別支援教育のコーディネーターやスクールカウンセラーとして、学校教育現場で活動しています。また、教育委員会や教育センター、発達支援センターなどで活動している方、教育委員会の依頼を受けて相談業務に従事している方もいます。「学校心理士」資格は心理教育的援助サービスに強い教育職（教師）と学校教育の専門性の高い心理職（公認心理師等）のキャリア発達を支えます。

准学校心理士

「准学校心理士」は学校心理士に準ずる資格です。学校心理士用の研修を受講し、大学・短期大学卒業後、実務経験（3年間）で「学校心理士」を受験することができます。若手の教師・保育者や相談援助職などが、知識と技能を身に付けて、心理教育的援助サービスの担い手としての一歩を踏み出します。



一般社団法人学校心理士認定運営機構 理事長

山口 豊一

学校心理士認定運営機構は、2011年4月1日に新しく歩みだしてからおよそ15年がたとうとしています。学校心理士の基本的な特徴は、一人ひとりの子どもに焦点を当てながら、学級・学校・地域社会のすべての子どもの学校生活を援助するところにあります。

学校心理士は、すべての子どもの基本的人権を尊重し、活動の対象となる一人ひとりの子どもの成長発達のために、学校心理学に基づく専門的力量を発揮するよう努め「チーム学校」を促進します。そして一人ひとりの子どもの個性を発見し、よさや可能性を伸ばすよう援助します。学校心理士は、「すべての子どもたちと学校」の日常と危機を援助します。

学校心理士を支えるさまざまな活動

スキルアップや研鑽、会員同士の情報交換ができるよう、情報提供・研修・発表の場を設けています。

会員誌・年報の発行

全国大会や各支部で開催される研修会や特長のある活動について紹介した会員誌（年2回）、さまざまな活動や研究成果をまとめた年報（年1回）をお届けします。

年報第15号より理論・提言論文、実践、展望、資料論文がJ-STAGEにて閲覧できるようになりました。



全国大会の開催

年1回、学校心理士として取り組むべきテーマを掲げ、協調や研鑽を深める場として、全国大会を開催します。講演・ポスター発表・研修会など、学校心理士の活動を支援する具体的実践的な内容を提供しています。



各支部研修会の開催

全国に設けられた各支部でも独自に研修会を開催しています。各支部内の交流をはかることはもちろん、話題になっているテーマを取り上げ、外部からも講師を招くなど、工夫をこらしています。

国際活動

●2018年7月25日～28日、国際学校心理学会（ISPA）が東京成徳大学で開催され、44カ国から526名が参加して各国の心理教育的援助サービスについて語りあいました。

●2023年11月3日～5日開催の中華本土社会科学会の大会に招聘され、日本の学校心理学に関するシンポジウムにおいて、西欧の心理学と日本の社会、日本学校心理学、日本の学習コーチング、横浜プログラムによる学習指導と生徒指導などについて発表しました。学校心理学における長年の日本での研究業績と、台湾と日本との交流の促進が評価され、4名が中華本土社会科学会の「海外名誉会員」に推戴されました。

学校心理士が活躍するステージ

コーディネーターとして

三次的援助サービスによる教育支援と コーディネート

大学准教授 川池 順也

病気になる子どもの教育支援には、病院内に分校が設置されていたり、訪問教育などが展開されています。

入院加療を必要とする子どもたちは、病気が治癒・緩解すると、地域の学校に戻っていきます。この際、コーディネーターとして、学校心理士としての知見を活かし、特別な配慮が必要な子どもへの援助として、「予め授業で質問がしやすい席にする」「発作・身体不調が誘発されたら保健室へ行くことを予めクラスメイトに伝えておく」などの様々な配慮について考え整理し、具体的に提案して、担任教師などと調整しています。

コーディネート力を培うことが求められており、研修会を通して学ぶことができます。

カウンセラーとして

子どもに直接カウンセリングするだけではなく、 子どもを取り巻く人たちにも働きかけます

スクールカウンセラー 半田 一郎

私は、平成7年度からスクールカウンセラーとして仕事をしています。一般的には、スクールカウンセラーというと、相談室で子どもにカウンセリングをしているシーンを思い浮かべることが多いと思います。しかし、私の場合、必ずしもそうではありません。相談室で子どもと話すよりも、廊下や教室で子どもとかかわりをもつことや、先生や保護者と一緒に具体的な支援方法を考えて話し合うことの方が多いように思います。

学校という場は、子どもにとって毎日の生活の場であり、多くの人と関わり合って過ごしている場です。学校で多くの大人・子どもと関わり合いながら子どもは成長していくものです。

学校心理学は、そういった学校という場のあり方を踏まえ、子どもの成長をどのように支えていくかについての学問体系です。そして学校心理士は、多職種が連携する学校現場でチーム学校の一員として学校心理学をもとに心理教育的な援助サービスを実践しています。

「チーム学校」や「多職種の連携」と聞くと堅苦しく感じますが、ひとりの子どもを中心として多くの大人が関わり合っている、その子どもの成長を支えているということです。学校という日常の場で多くの大人と関わり合いながら子どもを支援することは、学校心理士の最も得意とする子ども支援だと思っています。